

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：32633

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17479

研究課題名（和文）診療情報データベースを用いたがん看護の質モニタリングに関する探索的研究

研究課題名（英文）An Exploratory Study on Quality Monitoring of Cancer Nursing Using Medical Information Database

研究代表者

奥山 絢子（OKUYAMA, Ayako）

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：90452432

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：看護ケアの質のデータベースを確立するための理論的基礎を提供するために文献調査を行った結果、看護師への研修、患者のアセスメント、迅速な治療提供の準備、患者との信頼関係構築とニーズや選好の把握、コミュニケーションとチームワーク、患者安全と合併症予防が中心的な要素として抽出された。院内がん登録等を用いて、ガイドラインに基づく支持療法の実施割合とがん専門看護師の配置との関連が明らかとなり、既存データががん看護の質把握に活用できる可能性が示唆された。さらに、看護部長へのアンケート調査の結果、看護部長は患者の生活の質を把握することが最も重要であると捉えていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢のがん患者の増加など、がん患者の多様性が進む中で、患者が安心して納得できる治療を受けるためには、患者の個性を考慮した看護ケアが必要不可欠である。測定は、質改善の中心概念とされる。本研究において、看護ケアの質のデータベースを確立するための理論的基盤を明らかとしたこと、さらに既存情報を用いてがん看護を可視化できる可能性が示唆されたことは今後看護の実態を把握し、よりよい患者ケアへの改善につながる基礎的な資料となると考える。国際誌にも2本原著として掲載され、広く看護関係者だけでなく、がん患者に関わる多職種にも看護師の役割認識の理解につながることを期待する。

研究成果の概要（英文）：The results of our literature review can provide the theoretical framework for establishing a database of monitoring nursing care quality. We should include the following elements: training of the nurse, assessment and management of conditions, preparations to provide timely treatment, building a trust relationship with the patient, understanding their needs and preferences, communication and teamwork, patient safety and freedom from complications. Using the database, such as hospital-based cancer registries, the association between proportion of guideline-based supportive care and the assignment of oncology nurse specialists was identified. This shows the possibility that existing data can be used to understand the quality of oncology nursing. Furthermore, the results of a questionnaire survey of nurse managers revealed that they consider it most important to monitor the quality of life of patients.

研究分野：看護管理

キーワード：がん看護 質指標 モニタリング リアルワールドデータ 看護管理

1. 研究開始当初の背景

質の測定は、質改善の中心となる概念である。しかし、看護の機能を反映するものが何かという点が明確化されにくいこと、そして測定が困難であるということが継続的な看護の質指標のモニタリングを困難にしている。近年、診療情報の電子化が進むとともにがん登録をはじめとする疾患登録や日々の診療情報データベースを活用した医療やケアの質評価の試みが国内を問わず重要となっている。疾患登録や診療情報から抽出する指標は、抽出できる変数には限界があるものの、悉皆性が高く、医療従事者、患者や家族に負担をかけずに評価ができるという利点があり、継続的な看護の質をモニタリングする上でその利用価値は高いと考える。

2. 研究の目的

本研究では、①看護ケアの質のデータベースを確立するための理論的基礎を提供するため、看護ケアのモニタリングにおける要素を Nursing Role Effectiveness Model (Irvine ら) に基づいて明らかにすること、②診療情報データベース等の既存情報から把握できる看護の質指標について探索的な検討として、化学療法を受けるがん患者に対する予防的制吐療法の実施状況とがん専門看護師らの配置との関連を明らかにすること、③病院で提供する看護ケアの責任者でもある看護管理者の視点からがん看護の質指標として把握するべき要素を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

目的①PubMed、CINAHL、コクランデータベース等を用いて2018年4月までに公開された文献を対象に文献調査を行った。抽出された看護ケアのモニタリングにおけるコア要素について Irvine らの提唱した Nursing Role Effectiveness Model に基づいて分類した。

目的②院内がん登録とリンケージさせた DNP 導入の影響評価にかかる調査データを用いて、まず初回の化学療法患者について催吐性リスクと催吐性リスク別に予防的制吐薬の処方実態を分析した。その結果を踏まえ、がん専門看護師、がん看護認定看護師らの配置とガイドラインに基づく予防的制吐薬の処方割合との関連についてマルチレベル分析を実施した。

目的③がん診療連携拠点病院等を中心とするがん診療病院 849 施設の看護部長を対象に、がん看護の質把握の重要性と継続的なモニタリングの必要性の認識についてインターネット調査を実施した。

4. 研究成果

【看護ケアの質モニタリングにおける要素】

看護ケアについて19文献(18研究)が選定された。これらの文献から抽出された要素を Nursing Role Effectiveness Model に基づいて構造、過程、結果の3つに分類した。これらの要素についてみると、構造では看護師への研修、過程では患者のアセスメント、迅速な治療提供の準備、患者との信頼関係構築とニーズや選好の把握、コミュニケーションとチームワーク、結果では患者安全と合併症予防の要素について今回抽出された文献の3分の1以上でモニタリングするべき要素として挙げられていた。また、指標の選定においては、関連する複数のステイクホルダーが関与することが指標の選定において重要であることが示唆された。(奥山ほか、医療の質・安全学会誌 2023年17(1):3-15)

【化学療法を受けるがん患者に対する予防的制吐療法の実施状況とがん専門看護師らの配置】

化学療法を受けるがん患者に対する予防的制吐療法実施状況をみると、高度催吐性リスクが高い抗がん剤が使用されている食道や乳がん患者に対する治療においてはガイドラインで推奨されている3剤を併用した制吐療法が実施されている割合が90%以上と高くなっていたのに対し、悪性リンパ腫ではガイドラインでは3剤が推奨されているがステロイドを除く2剤の制吐療法が実施されている割合が高いことが明らかとなった (Okuyama, et al. Cancer Rep 2022:5(3):e1482)。

こうしたがんによる治療の差異を踏まえ、がん専門看護師、がん化学療法認定看護師の配置と予防的制吐療法の実施割合との関連についてマルチレベル分析を行った結果、がん専門看護師が配置されている施設のほうが、ガイドラインに基づく制吐療法の実施割合が高いことが明らかとなった。一方でがん化学療法認定看護師の配置はガイドラインに基づく制吐療法実施割合に対してポジティブな関連を認めたが、統計学的有意差は認めなかった。これは、今回調査対象となった病院の90%以上においてすでにがん化学療法認定看護師が配置されていたためではないかと考えられた。本研究では初めてがん専門看護師の配置が診療ガイドラインに基づく制吐療法の実施割合と関連があることを明らかとなった。(Okuyama, et al. Supportive Care in Cancer 2022:30(9):7815)

【看護管理者からみたがん看護の質モニタリング要素】

がん看護の質モニタリングとして、看護部長は患者の生活の質を把握することが最も重要であるととらえていた。また、がん登録数が多い施設では看護師の質・量の確保を継続的に把握する必要性の認識が高く、がん診療規模によってモニタリングすべき要素が異なる可能性が示唆された。

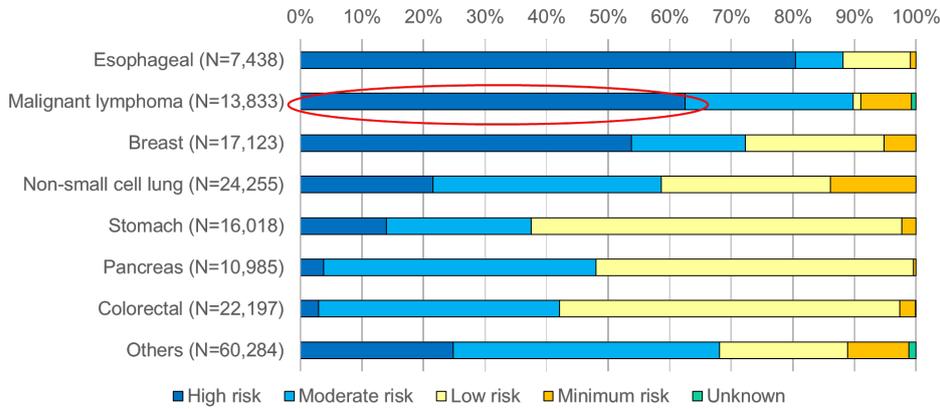


図1. がん別化学療法催吐性リスク分布(奥山他. 第58回日本癌治療学会学術集会発表資料より)

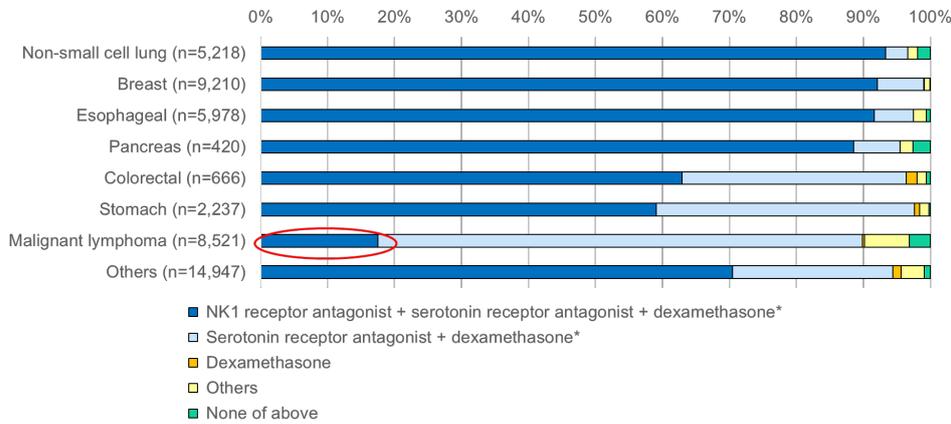


図2. がん別静注高度催吐性リスク時の予防的制吐療法(奥山他. 第58回日本がん治療学会学術集会発表資料より)

表1. 予防的制吐療法実施を従属変数としたマルチレベル混合効果ロジスティック回帰分析結果

	オッズ比	95%信頼区間	P値
定数	2.64	1.98-3.51	<0.01
患者の年齢 (0=75歳未満、1=75歳以上)	0.59*	0.55-0.63	<0.01
患者の性別 (0=男性、1=女性)	0.83*	0.79-0.88	<0.01
疾患特性(がん種) (0=その他のがん)			
胃がん	0.43*	0.39-0.48	<0.01
大腸がん	1.21	0.93-1.58	0.16
非小細胞肺癌	4.50*	3.99-5.08	<0.01
乳がん	5.05*	4.56-5.59	<0.01
悪性リンパ腫	0.52	0.05-0.06	0.18
がん化学療法認定看護師配置 (0=無、1=有)	1.22	0.91-1.62	0.18
がん専門看護師配置 (0=無、1=有)	1.41*	1.17-1.68	<0.01

(奥山他. 第25回日本看護管理学会学術集会発表資料より抜粋)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Okuyama Ayako, Boku Narikazu, Higashi Takahiro	4. 巻 5
2. 論文標題 Real world emetic risk of chemotherapy and the corresponding antiemetic therapy in Japan: A study based on a nationwide database	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancer Reports	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/cnr2.1482	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Okuyama Ayako, Takemura Yukie, Sasaki Minako, Goto Atsushi	4. 巻 0
2. 論文標題 Certified nurse specialists in cancer nursing and prophylactic antiemetic prescription for chemotherapy patients	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00520-022-07019-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Okuyama Ayako, Takemura Yukie	4. 巻 17
2. 論文標題 看護ケアのモニタリングのための重要な要素インテグレイティブレビュー-Key elements for monitoring nursing care: an integrative review.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医療の質・安全学会誌	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 奥山絢子、岩上将夫、友滝愛、伊藤沙紀子、田中宏和	4. 巻 14
2. 論文標題 日々の診療情報を用いた研究報告の質向上への提案 RECORD-PE: The REporting of studies Conducted using Observational Routinely collected health Data statement for Pharmacoepidemiology（日常的に観察されて集められる健康情報を用いて行われる薬剤疫学研究の報告に関する声明）の日本語版について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医療の質・安全学会誌	6. 最初と最後の頁 133-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥山 絢子	4. 巻 53
2. 論文標題 誰でも知っておきたい！よく使われている報告ガイドライン：RECORD日々観察されて集められている診療情報を用いた研究の報告基準	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥山 絢子	4. 巻 14
2. 論文標題 日々集められている診療情報を用いて質の高いエビデンスを発信するために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医療の質・安全学会誌	6. 最初と最後の頁 476-478
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩上将夫、奥山 絢子、	4. 巻 15
2. 論文標題 日々集められている診療情報を用いて薬の安全性や効果を検討する時に報告するべきこと RECORD-PEとは？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療の質・安全学会誌	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥山 絢子、中村文明、東尚弘	4. 巻 23
2. 論文標題 がん薬物療法時の予防的制吐薬の処方状況と看護アセスメント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 63-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 奥山絢子, 武村雪絵, 佐々木美奈子
2. 発表標題 専門・認定看護師の配置と化学療法時の予防的制吐療法実施率
3. 学会等名 第25回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Okuyama A, Takemura Y.
2. 発表標題 The integrative review of monitoring quality indicators for nursing and midwifery practice.
3. 学会等名 International Forum on Quality & Safety in Healthcare, (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥山絢子、東尚弘.
2. 発表標題 我が国の催吐性リスク別にみた抗がん剤と予防的制吐薬の処方状況
3. 学会等名 第58回日本癌治療学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥山絢子、武村雪絵、國江慶子
2. 発表標題 都道府県におけるがん患者1万人当たりのがん専門・認定看護師数.
3. 学会等名 第35回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Okuyama A, Takemura Y, Higashi T.
2. 発表標題 Identifying cancer patients' care needs after discharge hospital using health claim data linked with Hospital-Based Cancer Registry Data in Japan.
3. 学会等名 ASCO Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥山 絢子
2. 発表標題 リアルワールドデータを用いた研究報告基準RECORD/RECORD-PE
3. 学会等名 第39回医療情報学連合大会/第20回日本医療情報学会学術大会チュートリアル8「日本語版RECORD/RECORD-PEから学ぶLearning Healthcare System時代の研究報告」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥山 絢子、武村雪絵
2. 発表標題 看護の質のモニタリング文献調査からみた看護助産ケア指標
3. 学会等名 第22回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayako Okuyama, Yukie Takemura, Minako Sasaki, Atsushi Goto
2. 発表標題 Certified nurse specialists in cancer nursing and prophylactic antiemetic prescription for chemotherapy patients
3. 学会等名 MASCC/ISOO annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奥山 絢子 武村 雪絵
2. 発表標題 看護管理者からみたがん看護の質の評価
3. 学会等名 第26回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奥山 絢子
2. 発表標題 交流集会：看護管理の視点からがん看護の質の向上を考える～人的資源の活用を通して～：人的資源管理とがん看護の質の評価
3. 学会等名 第37回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------